

避難のための参考となる基準雨量

噴火後に土石流を発生させた過去の事例（平成12年有珠山噴火、平成12年三宅島噴火、平成3年雲仙岳噴火）の降雨データを参考にすると、土石流が発生した降雨のうち、雨量の下限値としては、三宅島において4mm/hの降雨で土石流が発生した事例があります。したがって、4mm/h以上の強度の降雨が予測される際には、土石流による被害のおそれの高まっている土石流危険渓流において、土石流の発生が切迫していると判断されます。なお、雨量基準については、今後の降雨と土石流の発生実績に応じて見直しを行う予定としています。

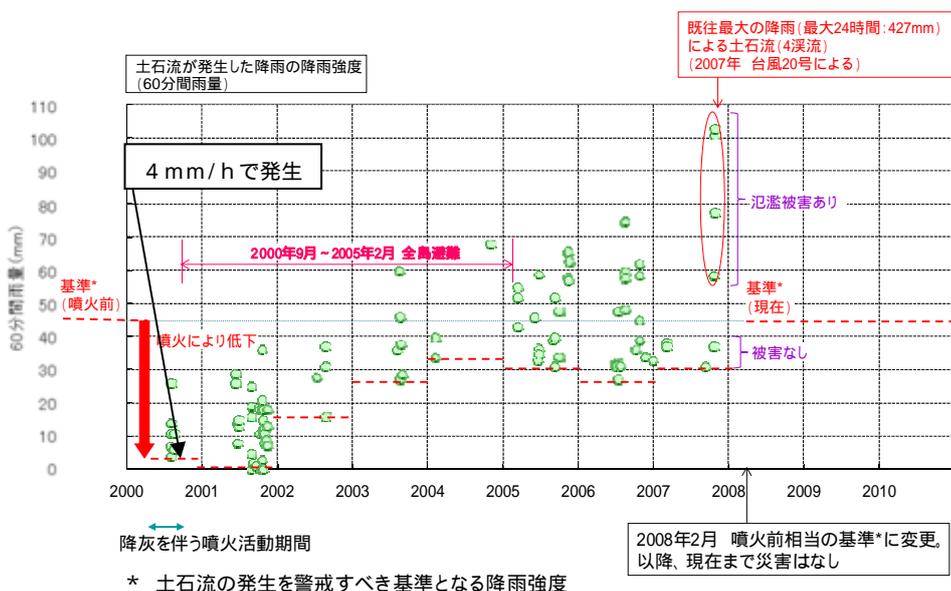


図1 三宅島の土石流発生状況と発生時の降雨強度（60分間雨量）の関係
（伊豆諸島土砂災害策検討委員会 第15回三宅島土石流・泥流部会 討議資料
（2008（平成20）年2月4日）に加筆。東京都提供）

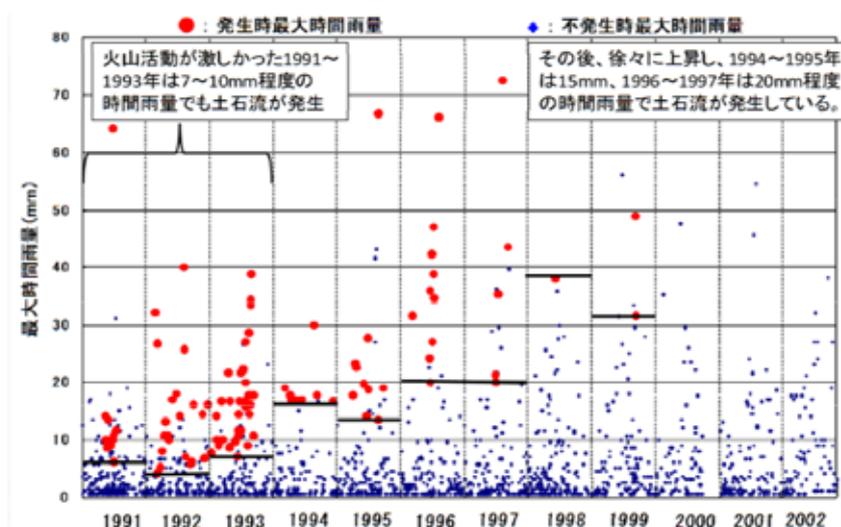


図2 雲仙・普賢岳の土石流発生状況と発生時の降雨強度（60分間雨量）の関係
（第1回雲仙・普賢岳火山砂防計画検討委員会資料より）